

# 長野県スポーツアワード 2024

## ～受賞者と受賞理由～

### ○ 最優秀賞

#### ◆ 佐久長聖高等学校駅伝部

理由：全国高校駅伝に27年連続27回出場し、2年連続4回目の優勝を飾った。長野東高校とともに優勝を果たし、県勢初のダブル優勝となった。この結果は、「駅伝王国」としての強さを全国に示すものであり、県内外で大きな話題となった。また、県民に大きな感動と勇気をいただいた。

#### ◆ 長野東高等学校陸上競技部女子駅伝チーム

理由：全国高校駅伝に18年連続18回出場し、2年ぶり2回目の優勝を飾った。佐久長聖高校とともに優勝を果たし、県勢初のダブル優勝となった。この結果は、「駅伝王国」としての強さを全国に示すものであり、県内外で大きな話題となった。また、県民に大きな感動と勇気をいただいた。

### ○ 優秀賞

#### ◆ 飯山高等学校スキ一部

理由：インターハイにおいて、女子が総合優勝、男子も総合準優勝と輝かしい成績を残した。特に女子クロスカントリーリレーでは、メンバーが変わりながらも7連覇を達成し、大きな注目を浴びた。個人の種目でも複数の選手が入賞するなど男女とも高い競技力を見せつけた。また、今後のオリンピック代表になれる素質を持つ選手も多く在籍している。

#### ◆ 小原 理子 氏（上田高校3年）

理由：スズキワールドカップ2024第35回エアロビック世界大会のジュニアトリオ部門で優勝。県外に住む選手たちとトリオを組み、互いのクラブを行き来しながら練習を重ね、努力の末につかんだ金メダル。今後シニア部門での活躍が期待される。

◆ 佐々木 翔夢 氏（明治大学2年：小海高校卒）

理由：ワールドカップスピードスケートマススタートにおいて、小海高校在籍時に初優勝。大学に進学してからも全日本選手権で優勝するなど、着実に実力を伸ばしており、来年のミラノ・コルティナ冬季五輪への出場も期待される。

◆ 中野 林太郎 氏（富士電機フロンティア）

理由：日本知的障がい者バドミントン選手権大会男子シングルス・ダブルスともに優勝。特にシングルスでは5連覇を達成。また、DAIHATSU日本障がい者バドミントン選手権大会男子シングルス・ダブルスにおいても優勝を果たし、知的障がい者バドミントンの絶対王者として君臨。今後の活躍が期待される。

◆ 西嶋 岳琉 氏（松本蟻ヶ崎高校3年）

理由：アジアジャンプロープ選手権大会2024のシングルロープ個人男子3重跳びで優勝。この大会で509回を記録し、日本新記録を樹立。縄跳びという誰もが知っている競技でも世界に羽ばたけることを示した。今後の活躍が期待される。

◆ 林 康生 氏（中京大学4年：地球環境高校卒）

理由：全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会の男子500m・1000mで優勝。ワールドカップで銅メダルを獲得するなど、来年のミラノ・コルティナ冬季五輪への出場も期待される。

◆ ボアールス長野フットサルクラブ

理由：Fリーグディビジョン2において、開幕から無敗を続け、16試合負けなしという圧倒的な成績で首位を独走。見事優勝を果たし、F1自動昇格を決めた。今後F1での活躍が期待される。また、部活動の地域移行に関し、市内の中学校のサッカー部をクラブとして運営・指導者を派遣したりするほか、地域貢献活動も積極的に行い、スポーツ文化の向上に寄与している。

◆ ポミエ新体操クラブ（飯田市）

理由：全国中学校新体操選手権大会女子団体が優勝。新体操競技の優勝は、長野県勢としては初の快挙。3年後の「信州やまなみ国スポ」での活躍も期待される。

◆ 牧 秀悟 氏（横浜 DeNA ベイスターズ）

理由：2024 シーズンもベイスターズの中心打者として素晴らしい成績を残した。打率 3 割に迫る高いアベレージに加え、23 本塁打、74 打点と長打力も発揮。また、主将として球団 26 年ぶりの日本一に導いた。

◆ 丸山 弘毅 氏（神奈川 VANGUARDS）

理由：天皇杯 第 49 回日本車いすバスケットボール選手権大会で優勝し、MVP を受賞。さらに、今年の大会でも優勝し、3 連覇という快挙を達成。また、2024 アジアオセアニアチャンピオンシップスに日本代表として出場し、4 位入賞に貢献。ロサンゼルスパラリンピックへの出場も期待される。

※なお、選考にあたっては、以下の基準に基づき実施した。

- （1）候補者がその年に達成した成績や実績を評価【活躍の度合い】
- （2）長野県内外での注目度や影響力【話題性】
- （3）特に若い選手やアマチュア選手の場合、今後の成長や可能性を考慮【将来性】
- （4）スポーツ文化の向上に寄与したか【長野県への貢献度】
- （5）その他上記以外の特に評価すべき事項